

フランス文学専攻（博士後期課程）

1. 教育研究上の目的

フランス文学専攻は、フランス文学・フランス語学・フランス文化学の研究分野に関して、広範かつ高度な専門知識と独創的な方法論を修得しつつ、独自の視点に基づく専門研究を行うことができ、また、専門的研究を通じて、文化・社会について分析・考察を的確にできる能力を有する者として社会に貢献できる研究者・教育者を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

フランス文学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（フランス文学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. フランス語で書かれた研究文献を深く正確に理解することができる。
2. 自らの研究成果をフランス語で十分に表現し発表できる能力（ヨーロッパ言語共通参照枠C1に相当）を身につけている。

（思考・判断・表現）

3. 専門的研究を通じて、文化、社会、人間について深い洞察をもって批判的に分析する能力を有する研究者・教育者として社会に貢献することができる。

（関心・意欲・態度）

4. フランス語学・フランス文学・フランス文化学の研究分野に関して広く深い専門知識と独創的な方法論を修得し、独自の研究テーマに取り組む意欲がある。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

フランス文学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 先行研究を批判的に検証し、独自の視座を獲得する能力を習得させるために「フランス語学演習」「フランス文学演習」「フランス演劇演習」を配置する。（知識・技能）
2. 研究分野に関する先端的知識を深め、自身の見解を専門知に基づいてフランス語で表現する能力を習得させるため「特殊研究」を配置する。（思考・判断・表現）
3. 学生が博士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、「博士論文指導」

を必修科目として配置する。(思考・判断・表現)

4. 高度な専門知識を修得するため、他大学院研究科との相互交流協定を通じて相互の履修及び単位の修得ができ、学外の研究機関の設置する課程・研修会等の履修により設定された単位の履修を認める。(関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
4. TAとして学部教育に関与させ、教育経験を積ませる。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、博士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 指導教授による演習科目において、専門知識を習得し、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、博士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

フランス文学専攻(博士後期課程)では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 自らの専門領域について高度な知識を有し、フランス語資料を正確かつ批判的に理解・分析でき、学術的内容を正確に論じることができる。
2. 自身の研究対象と研究方法についてフランス語で説明できるフランス語力(ヨーロッパ言語共通参照枠B2に相当)を習得している。

(思考・判断・表現)

3. 博士論文につながる独創性のある研究計画を確実な専門知識に基づいて具体的に説明することができる。

(関心・意欲・態度)

4. 自身の研究対象と研究方法について、先端的研究の成果を積極的に取り入れる能力の習得に強い意欲を持っている。

以 上